

ハイデルベルク信仰問答より

問 29 イエスと呼ばれる神の御子は、なぜ救い主と言われるのですか。

答え それは、イエスが私たちが罪から救い（マタイ 1:21）、その救いは、ほかの誰にも求めることも、見出すこともできないからであります（使徒 4:12）。

使徒信条は全体として三つの条項にまとめられています。

- I. 父なる神
- II. 子なる神
- III. 聖霊なる神

これまでは「父なる神」について学んできましたが、ここからは「子なる神」についての学びが問 52 まで続きます。

まず、問 29 は「イエスの御名」についての問いから始まります。「イエスと呼ばれる神の御子は、なぜ救い主と言われるのですか」。神の子は「イエス」と呼ばれる。この名前はヘブライ語の「ヨシュア（イエホーシュア）」（意味：主は救い）をギリシャ語化したものです。特別珍しい名前というわけではなく、ユダヤ人にとってはきわめて一般的でした。長男が生まれると両親は跡継ぎができたことへの感謝を込めて、よく「イエス」と名付けたのです。救い主なる方にこの平凡ともいえる名前が付けられた意味を二つの方向から捉えてみましょう。

①まさに人間の一人として世に来てくださった

神の子に「イエス」と名付けるよう父親となるヨセフに命じたのは御使いでした（マタイ 1:21）。神から、必ず実現されるべき命名として示されたのです。誰の記憶にも刻銘に刻まれるような名前ではなく、ありきたりの名前が付けられたところに、誕生の前から神の子の輝きを隠した主イエスの姿が垣間見られます。神が人間の如く世に来られたのではありません。まさに弱い肉体を持つ一人の人間として来られたのです。労働をすれば疲れ、悩めば心は沈み、悲しければ涙を流し、傷を受ければ出血する、まぎれもない一人の人間として地上の生涯を歩み始めてくださいました。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」（ヨハネ 1:14）。その誕生が物語っているように、神の子の栄光は隠され、皇帝アウグストの支配下にある国に、不衛生な家畜小屋で、「最も貧しい者」としてお生まれになったのです。そして、神の子としての栄光を自ら誇示することなく、「あの男は何者なのだ」という噂は立つが正体は明らかにされないまま、最後は十字架上で極悪人の一人としての死を遂げました。他の「イエス」が誰も経験しないような汚辱にまみれた人生を歩まれたのです。それは何のためであったか。人間世界の痛みと悩みを知り尽くすため、そして罪人のまことの友となるためであります。

私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。（ヘブル 4:15）

②救いはこの方によって実現されなければならなかった

「主は救い」を意味する「イエス」という名は、神の子にこそふさわしいものでした。この名前がずっと待ち望んでいた人物、それがナザレのイエスであったとも言えるでしょう。神の子がその名で生きるとき、そこにはとてつもない意味が加えられることとなります。ルターは「この文字の中には、初めからすべての人の罪が含まれてしまっている」と言いました。「救い」が訪れなければならない何らかの状況があった。この世界が待つ待つ待ちわびていたもの、それは神からの「救い」でした。私たち人間一人びとりが待ち望んでいたもの、それは神からの「救い」です。いえ、私たちは自分に救いが必要だということすら知らなかったのではありませんか。そのことを知るために、問3～9にかけて「罪」に関する学びをしてきました。生まれつき、神を神とせず、自己を神とする人間、そうせずにはおられない人間。神から離れているがゆえに歪んだ心を持ち、性質が腐敗している私たち。死後の審きを待つほかなき人間に、神は救いを送ってくださったのです。

問 29 の答えは、第一に「どういうところからの救いであるか」を説明しています。それは「罪からの救い」です。第二に「イエス以外には救いはない」と断言しています。神がただ一つ用意された救いの方法、それはイエス・キリストの十字架による罪の赦しを信じ、この一方的な神の恵みを受け取ることであります。

引用されているマタイ 1:21 には続きがあり、23 節には「**その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である)**」という約束が含まれています。主イエスがその後「インマヌエル」と呼ばれたという記事は新約聖書の中にはありません。しかし、救いが来られたということはインマヌエルが実現したと言い換えることができます。私たちが神と永遠に共にいられるようになるため、主イエスは世に来られたのです。ヨハネの黙示録はこのように締めくくられています。「**主イエスの恵みがすべての者とともにあるように**」(22:21)。神の恵みが共にある。罪人に対する一方的な神の愛がイエス・キリストにおいて私たちに注がれているのです。主イエスは「インマヌエル」そのものとして、私たちの内に臨在してくださっています。